

ビデオナービズネットとは個人規模で映像関係を業務としている事業者及びそのことに関わっている者の組織です。

3月定例会のご案内

次回定例会は

2023年3月9日（木）19時～21時

公式WEB <http://www.videoner-biznet.com>

・2023年の会費納入をおはやめに！！

・今月の会員コラム⇒

- ①吉岡 アニメについて
- ②高橋 コロナ禍ビデオの変遷体験



2月定例会参加者（あいうえお順）

赤岡、近藤、佐藤、菅澤、高橋、野上、
宮崎、吉岡、脇田、

2月例会のご報告

1吉岡会長⇒ビズネットを知ってもらうため

Youtubeを活用する提案があった。

・自己紹介（やりたい人がやる。自分で作って送る。という意見があった）

・テーマを決めたトーク（楽しそうにやってる雰囲気を出したい）

・現場撮影

・サンプル動画はクライアントの許可を得る

・Youtubeのビズネットチャンネルを作る

・また4月の例会ではYoutube用の撮影会を開催しては？との意見もあった。

会員の近況報告

◇佐藤⇒顧客に絵コンテで提案書を提出し、好評であった。

◇赤岡⇒昨年「赤ちゃん運動会」の制作にあたって参加されたメンバーへ協力への謝意があった。

◇脇田⇒クリスマス会撮影の報告があった。

◇菅澤⇒ビズネットの腕章非常に効果があった

・ラインで吉岡さんの支援で破損ファイルが修復できた。感謝の意向があった。

◇近藤⇒佐藤さんの話をうけて例会で企画物のビデオ制作についての話をしたかった云々。

◇野上⇒Blackmagic社のDaVinci Resolveの活用についての話があった



編集者の独り言

皆さん 3月の青色申告の手続きでご多忙のことと思います。自分は年1回で決算作業しているため、領収書やデータの収集に苦労していました。下記のツールを利用するとかなり省力化できました。

今年、青色申告の作業をされていて便利なツールをご紹介します。あくまで個人的な参考意見です。

①**銀行のエコ通帳**（通帳は発行されないが、取引記録が10年間、EXCELLにダウンロードでき、そのデータを仕訳伝票にできます。

②**クレジットカード** 取引明細は最長12カ月しかダウンロードできる。エコ通帳と同じようにダウンロードできて仕訳伝票に利用できます。
※但し1年分。

③**ネット通販**（Amazon・ヨドバシネット）領収書がダウンロードできます。

※領収書の管理が一番大変でした。領収書を保管して紙に糊付けすることが大変でした。両社の通販ですといつでもPDFにダウンロードできます。

④**モバイルスイカ**⇒交通費の明細がダウンロードできる。但し182日間で100件以内

⑤**弥生会計**⇒簡単に優れモノの会計ソフトです。

⑥**電子申告 (e-Tax)**

自分に適合するか否かは税理士さんにご相談ください

自分は①から⑤まで終了後チェックと電子申請は税理士さんをお願いしています。

よっしーの 妄想が^{はかど} 捗ります (6)

アニメ

※個人的な見解。半分くらいは合ってると思います。ご意見、ご指摘、お待ちしております。

アソシネット株式会社 吉岡

2023年2月20日

今、Netflix を契約してアニメばかり見てる。尋常じゃないくらい(笑)

サッカーのユースを題材にした、あるアニメが面白くて。プロを目指す若者の話なんだけど、何か、自分たちと通じるものがあるね。

試合中は、話し合う時間がない。アイコンタクトとか、視野を広く、味方や相手が何を考えてプレーしているのか、常に考えてるとか。

何か、刺さるじゃん。ビデオマンは、チームプレーだからさ。

あと、このアニメのオープニング、すごく綺麗なんだ。ってか、最近のアニメって綺麗なものが多くてさ。ハードやソフト、考え方も含めて、一昔前より、格段に技術が上がっている。

ただ、一つ、言えることは、

その監督が、作る人が、その風景を、その色を、そのように見えていなければ、そうにはならないってこと。綺麗な風景のアニメ、情緒ある風景のアニメ、良いセンスだなと思うアニメの監督の目には、世の中がそう見えてるのよね。

そういうのって、映像の技術より前の話だからさ。

感性っていうか、日本のわびさびが好きなのか、自然が好きなのか、建物が好きなのか、歌舞伎、外国文学、SFが好きなのか、アニメのようなポップカルチャーが好きなのか、そういうのでも、その人の個性って変わってくるからね。自分も、たくさん、そういうのを見なきゃなって思うよ。

もし、アニメが食わず嫌いの人がいたら、ちょっともったいない。何を見たらいいかわからなかったら、案内するよ。

西湘のビデオ屋稼業

2023.3月 高橋 昌一
(含むことあり:個人的、感覚的話し)

●コロナ禍ビデオの変遷体験

① コロナ禍の初期、幼稚園・保育園を例にとれば、「卒園式」から始まって、色々な行事が縮小・中止傾向になっていきました。

そんな中、時の経過とともに、「先生側」「保護者側」とも、「形を変えながら何とか実施できないか」と、思いを巡らしはじめます。

② 何とか実施しようとするにも、今回の体験は初めてことだからどうしてもアタフタ感はずきまどってしまいます。

公共のホール等は借入不可。マスク必須に、歌声は禁止。園児も観覧保護者もソーシャルディスタンス確保。保護者の人数制限や無観客開催もありました。

練習時間も、コロナ感染予防対応や感染状況に大きく左右されていたようです。当然、仕上がり精度が下がるのはやむを得ません。

必然、開催場所は園舎内になるも、ソーシャルディスタンスの調整から、2～4日の分散開催になってしまふこともよくありました。

その開催日も、園児を含め関係者にコロナ感染者が出ればその変更対策に大わらわになります。

(分散開催、急な日程変更はビデオ業者にとっても負担は重いですが、非常事態下ゆえ、こちらも腹をくくるしかありません)

とにかく「ドタバタ感」はいつもそんなふうにつきまどっていました。

③ そうこうしながら3年、感染者も規制も徐々に緩んできて、まだ満額ではありませんが、少しずつ平常に近い形で開催できるようになりました。

ようやく出て来た安心感なのですが、実は気にかかることがあります。

④ それは主催者も自分も、発表会等行事開催へ向けてのドタバタクセが、無意識的に身に染みついてしまっているのでは？ということです。(ドタバタぶりは昨年5月の会報にも多少触れています)

例えば、つい最近の発表会においても、皆なして(自分も含みます)、準備や進行や演技に落ち着きの無さを感じる人が多いのです。

もうそんなに慌てることでもないのに、「もっと落ち着いて行こう」と、自分に言い聞かせるものの、気持ちがすっかり今までのドタバタさにとり憑かれてしまって、中々そこから抜け出せない感じがしているのです。

⑤ (ここで内容が唐突にジャンプしてしましますが、)

ようやくコロナが落ち着きを見せようとしてきた今思うのは、それまでのコロナ禍生活で心にたまってしまったものの浄化とでもいいでしょうか…ドタバタ感から抜け出すに、それが一番の近道では？と感じます。

かなりやっかいでしょうが、とりあえず今はそこへ目を向けるようにしております。